

【コラム】

教育学的观点からみた IPE の意義と可能性の検討に向けて

渡邊 洋子

Significance and Possibilities of InterProfessional Education from the Perspective of Educational Studies

WATANABE, Yoko

近年、医療福祉分野で専門領域を越えた教育活動InterProfessional Education (IPE) が広く共有されるようになった。本研究は、このIPEの発想に基づく専門職教育者研修プログラムの開発を目的とするものである。IPE概念は、医療福祉領域で「多職種連携教育」として実践・研究されつつあり、同様の発想は、企業や行政、芸術などにも幅広く認められる。だが、専門職者養成という点では、各専門領域内で「縦割り」的に行われることが多く、専門職教育（担当）者は教育学の専門的素養に乏しいまま、経験知と試行錯誤に頼りながら育成にあたっている場合が少なくない。

このような現状を踏まえて本研究では、①様々な領域におけるIPEの実態の解明と、②<交流型IPE>の可能性と課題の検討を行い、③領域横断的専門職教育者研修プログラムの開発に取り組むものである。

本研究に先立つ研究としては、「専門職教育と専門職性に関する異業種間比較研究—成人教育学の観点から」（挑戦的萌芽研究・平成23～25年度・代表者渡邊洋子）がある。同研究は、多様な専門職における教育の異なる実態や共通課題を、医師・医療者（看護師・理学療法士など）養成、企業内教育、現場型行政官教育（海上保安官養成など）、教師・保育士養成、社会教育関連専門職（学芸員・社会教育主事・図書館司書）養成、法律家養成、学術的研究者養成などを手がかりに、領域横断的に探究する中で、多職種連携教育（Interprofessional Education）の実践交流モデルを開発・構築する試行的取り組み、およびそれに基づく異業種比較研究を行うというものであった。

それらを通し、先行研究の乏しい専門職教育と専門職性に関わる研究基盤を形成し、複数領域の専門職の実践的課題の共有化による自己・相互教育のメカニズムと専門職性の包括的研究への契機・可能性を得ることを目指した。

具体的には、京都大学IPE研究会として英国フィールド調査、専門職教育に関わる実践へのアクションリサーチと参与観察、メンバー用HPの立ち上げを行った。2011年8月には、賛同するメンバーが東京IPE研究会を結成し、京大IPEと適宜情報交換しつつ独自の活動を展開した。2013年2月、京大IPE研究会を関西IPE研究会に拡大・再編し、同3月にジャーヴィス博士を迎えた第2回IPEセッションを開催した。同研究会は以後、定例研究会と同時に、新たなインターネットサイトで時間と空間を超えたIPE情報ネットワークの実験的試行を

繰り返した。2014年3月8日には、京都大学総合博物館の特別展示と連動するIPE公開ワークショップを開催し、多様な領域の専門職者が共通テーマを異なる観点から話し合うIPE学習モデルを提起した。また3年間の経験を、専門職教育ハンドブックの試行版の編纂、学会発表や論文執筆、最終報告書等の学術的成果として発信した。

以上の経過を受け、本IPE研究グループは現在、京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーションセンターの活動の一環として、IPE基盤型・領域横断型の専門職教育研修プログラムの開発、専門職教育ハンドブックの改訂・刊行作業などに向けて、本特集に集結したような専門職教育の実際の共有化、およびそれを踏まえた研究チャット会議など、今後のプログラム開発につながる基盤づくりの研究活動を携わっている。

近年、チーム医療など多職種連携を基盤とする医療活動(Interprofessional Work, IPW)の需要がますます増える一方、医療以外の領域でも異業種交流に注目が集まっている。これらの文脈でのInterprofessional Education (以下、IPE)は、「効果的な協働を可能にし、ケアの質を向上させるために、複数の職種／業種の専門職が互いについて学び、互いから学び、互いとともに学ぶ時に生み出されるもの」等と定義されてきた(UK Centre for the Advancement of Interprofessional Education)。

これに対し、Hammockら(2007)は「IPEの成果として、また職場や教育場面で、複数の職種／業種の専門職・学生の自発的な相互作用で起こる学習」をInterprofessional Learning (IPL)と呼び、IPEと区別している。またIPLの観点から、学習者(専門職者や学生)が、多様なIP状況の中でどんな経験を得ていかに学び合い、それが職業人としてのアイデンティティ形成やプロフェッショナリズムにどう影響するかを考察している。

本研究と連動する今後の筆者の研究課題の一つは、以上を踏まえ、IPEの教育的意義と可能性について、IPWと直結する側面・しない側面の両面に注目して、理論的・実践的に整理していくことである。